レタス出荷最盛

4月中旬、春レタスの収穫作業が始まり、尾上青果センターには 早朝に収穫されたレタスが次々と運び込まれた。同管内ではハウス を有効活用し、春の所得向上につなげようと夏秋トマトの前作とし てレタスを栽培しています。生産者は「出荷作業を無事に終えるこ とができ、ほっとしている」と話しました。

収穫作業は5月中旬まで行われ、今年産は尾上野菜部会のレタス 生産者を中心に9人が作付けし、栽培面積は約30%、約2000箱(5 *。) を県内に出荷する予定です。





アスパラガス出荷本番

常盤基幹支店管内では、ハウス栽培のアスパラガスの収穫作業が 始まりました。5月中旬には、露地栽培のアスパラガスの収穫が始 まり、下旬まで出荷されます。 J Aでは、収穫基準の長さの27学 になったものから収穫し、長さが足りないものは下が紫色のため収 穫しないよう呼び掛けてます。

同センター管内(常盤・板柳)では39人が9月中旬まで約6300ケー ス $(1 f - \chi / 4.5^{+})$ を主に県内に出荷する予定です。

直売所の花壇を綺麗に

サンフェスタいしかわ友の会(伊藤より子会長)は4月10日、サ ンフェスタいしかわの敷地内にある花壇の整備を行いました。直売 所の景観を整えることを目的として毎年実施しています。会員13人 が参加し、手作業で雑草や枯れた花、ごみなどを取り除きました。

今後は、直売所を訪れるお客様を迎えるために、整備した花壇に 新たに花を植える予定です。





感謝祭でマメコバチの活躍讃える

5月8日、板柳町ふるさとセンター敷地内にあるマメコバチの丘 で「第29回マメコバチ感謝祭」が行われました。

板柳町では、りんごの授粉に必要不可欠なマメコバチを讃え、保 護していこうと、平成4年5月8日を「マメコバチの日」に定めて から毎年開催しています。出席者は、マメコバチの働きに感謝する とともに今年も高品質のりんご生産を目指し玉串を祭壇に捧げ、り んごの豊作を願いました。



各支店の広報委員が、身近な出来事をお伝えします。 皆さまからのホットな情報もお待ちしておりますので、 最寄りの支店へご連絡ください。





今年もおいしいかまくらりんご

JA直売所「あっぷるはうす・おふくろの店」の会員で構成する かまくらりんごの会(工藤朋恵会長)は4月22日、黒石市沖揚平地 区で雪の中に埋め冬越させたりんごを掘り起こす作業を行いました。

工藤会長は「かまくらりんごに適した大きさのりんごを選ぶのに 苦労した。今年もジューシーでおいしいかまくらりんごができたの で、多くの方に食べてほしい」と笑顔で話しました。25日の即売会 では、買い求めるお客さまで賑わいました。

甘味たっぷり春堀にんじん

葛川支店管内では、春堀にんじんの収穫作業が始まりました。4 月30日、谷川強さんは昨年の7月17日に播種(はしゅ)し、4月下 旬まで雪の下で育ったにんじんを手堀で収穫しました。

谷川さんは「5ヵ月間養分を蓄えたので、甘味がありおいしいに んじんとなった。春堀にんじんを毎年楽しみにしている方々のため にも、続けていきたい」と話しました。





マメコバチ活動時期まで保管

田舎館基幹グリーンセンターは4月上旬、マメコバチの冷蔵保管 受付を行いました。マメコバチは、りんごの授粉作業を助けるハチ のことで、生産者が育成管理をしています。りんごの開花時期に合 わせるため、一時冷蔵庫に入れて休眠させることが目的です。今年 入庫を申し込んだ生産者約130人が、マメコバチを木箱に入れ持ち 込み、JA職員と青年部員が冷蔵庫へ運びました。







